

地域づくり新聞

く新田二区く

平成28年3月発行

No.2

新田二区町内会

インタビュー



たがさぼスタッフの説明に耳を傾ける役員さん／新田公民館

平成27年12月11日、多賀城市市民活動サポートセンター（以下、たがさぼ）のスタッフが新田公民館におじゃまし、東修身区長さんをはじめとする役員さん、民生委員さん7名に町内会活動や地域の状況について、インタビューさせていただきました。

たがさぼは、町内会・自治会、NPO、ボランティア団体など地域で活動する団体、個人を応援する施設です。今回、伺った町内会活動や地域の状況は、貴重な参考事例として、多賀城の地域づくりに活かして参ります。

住民の安心・安全を守る

防災・防犯活動

新田二区では無線を設置し、災害時に役員同士が連絡をとれる体制をつくり、避難所となる山王小学校、活動拠点となる新田公民館との連絡体制を整備しています。防災訓練では、車いすを押して避難所まで実際に歩いてみるなど、

障がいを持つ方の避難も想定した実践的な訓練を行い、地域住民の方々の安心を守っています。また、区の垣根を越えて、山王区と合同の防犯パトロールを行うなどの連携もあり、地域の安全確保に努めています。

地域の美観を守る

ゴミ集積所

新田二区ではゴミ集積所をガラス、雨風から守るため、下図のような屋根と金網つきの集積所を設置しています。新田二区には約13箇所の集積所が設置し、地域の美化に努めているとのこと。



屋根つきのゴミ集積所

一緒に
考えたい

地域の困りごと

買い物行くにも

ひと苦労…

地区にあった商店やコンビニが閉店したことに伴い、車を持っていない住民の方は、高橋や岩切など遠方のスーパーまで歩いて買い物に行かなければならなくなりました。

買い物へ行く道中、車道では車がスピードを上げて走行しています。さらに、信号機のない地区や歩道のない道路もあるので、買い物へ行く方はもちろん、小学生や高齢の方が道路を横断するのは、とても危険な状態になっています。

新田地区全体の困りごととして、住民の皆さんの悩みになっています。



・たがさぼちゃん、たがさぼのイメージキャラクターです。
・この四コママンガは、地区のみなさんから伺ったお話を参考に、たがさぼスタッフが制作しました。

ちょっと

役立つ情報

地域が「いいこと」

笑んがわ市

過疎化が進む島根県雲南市中野地区では、「笑んがわ市」が週1回開かれています。「笑んがわ市」とは、住民組織が空き店舗を借りて運営する市場のことで、食料品から雑貨の販売、お茶のみサロン、さらには移動販売車も来るなど、賑わいを生んでいます。

商店がなくなること、「買い物難民」と呼ばれる交通手段を持たない人たちの日々の生活が不便になっています。「笑んがわ市」の取り組みは、空き店舗を活用することで、地域住民の方の困りごとを解決する手段になっています。

みんなの

新田公民館

新田公民館は、新田一区三区の町内会が共同で利用する集会所です。町内会の活動拠点として、さまざまな行事を開催されています。また子ども会のイベント、住民の方のサークル活動など、年間一七〇〇件以上も利用されているそうです。

今年度は、机やイス、照明も新しく入れ替え、活用しやすい環境を整えています。



農業組合の建物を改修した新田公民館

多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぼ) ってどんなところ？

町内会・自治会、NPO、ボランティア団体など地域づくりのために活動する人たちの拠点施設です。
市民の力による、地域の「困った」を解決する活動やまちの魅力を高める活動をサポートしています。